

## 講義要項(シラバス)

科目名	生活支援技術 I			授業方法	講義・演習		
担当教員名	渡辺 愛			必修・選択	必修	単位数	8単位
学科	介護福祉科	学年・時期	1年 通年		回数	60回	
担当教員の実務経験	担当教員は介護福祉士として5年の実務経験を有し、多様な現場で生活支援に携わってきた。これらの経験を基に、授業では判断力・実践力・利用者理解を重視した指導を行う。生活支援の根拠、環境整備、移動支援、福祉用具活用、家事支援、災害時対応などを具体例を交えてわかりやすく解説する。						
<b>授業の目的及びねらい</b>  生活支援技術 I では、利用者の生活全体を理解し、生活の質(QOL)を高めるための基礎的な生活支援技術を体系的に学ぶ。生活支援の理念、居住環境、移動・移乗、家事援助、福祉用具、応急手当、災害時支援など、介護福祉職として必須となる生活支援の基盤を身につけ、根拠に基づく実践力を養う。							
<b>授業終了時の到達目標</b>  1. 生活支援の理念・根拠・ICFの視点を理解し、利用者主体の支援を説明できる。 2. 居住環境の整備に関する知識を理解し、安全・快適な生活環境を提案できる。 3. 移動・移乗の介護における基本動作と安全確保のポイントを説明し、演習で実践できる。 4. 福祉用具の種類・選定・リスク管理を理解し、適切な活用方法を説明できる。 5. 家事援助の基本技術(調理・洗濯・掃除・買い物など)を理解し、利用者の自立支援の視点で説明できる。 6. 応急手当の基礎知識を理解し、事故予防の視点を持って行動できる。 7. 災害時の生活支援における介護福祉職の役割を理解し、地域資源と連携した支援を説明できる。 8. 多職種連携の重要性を理解し、生活支援における連携のあり方を説明できる。							
回数	各回のテーマ・内容					授業以外の事前準備 学習内容	
1	第1章 第1節 生活支援の基本的な考え方①(生活支援とは何か) ねらい: 生活支援の概念と介護福祉職の役割を理解する。 内容: 生活支援の定義、生活の営みと介護の関係、生活の質(QOL)。 学習活動: 生活支援の事例検討、生活行為の分類ワーク。					適宜、指示します。	
2	第1章 第1節 生活支援の基本的な考え方②(ライフサイクルと生活の豊かさ) ねらい: ライフサイクルと生活の豊かさの視点を理解する。 内容: 発達段階と生活、加齢と生活の変化、生活の豊かさの要素。学習活動: 自分史ワーク、生活の豊かさを考えるグループ討議。					適宜、指示します。	
3	第1章 第1節 生活支援の基本的な考え方③(生活支援のポイント) ねらい: 生活支援の基本原則を説明できる。 内容: 自立支援、尊厳保持、意思決定支援、環境調整。 学習活動: 生活支援のポイント抽出ワーク。					適宜、指示します。	
4	第1章 第2節 生活支援と介護過程①(根拠に基づく生活支援技術) ねらい: 介護過程と根拠に基づく実践の関係を理解する。 内容: 介護過程の流れ、エビデンスの種類、根拠の活用。 学習活動: 介護過程の事例分析。					適宜、指示します。	
5	第1章 第2節 生活支援と介護過程②(ICFの視点) ねらい: ICFの構造と生活支援への応用を理解する。 内容: ICFの構成要素、生活機能モデル、環境因子の重要性。 学習活動: ICF分類ワーク、事例のICF分析。					適宜、指示します。	

6	第1章 第2節 生活支援と介護過程③(利用者主体の生活支援) ねらい: 利用者主体の支援の考え方を説明できる。 内容: 意思決定支援、自己選択、生活歴の理解。 学習活動: 生活歴聴取ロールプレイ。	適宜、指示します。
7	第1章 第3節 生活支援とチームアプローチ①(重要性) ねらい: チームアプローチの必要性を理解する。 内容: 多職種連携の意義、情報共有、役割分担。 学習活動: チーム支援の事例検討。	適宜、指示します。
8	第1章 第3節 生活支援とチームアプローチ②(ライフステージと連携) ねらい: ライフステージに応じた連携のあり方を説明できる。 内容: 乳幼児期～高齢期の支援と連携。 学習活動: ライフステージ別支援計画作成。	適宜、指示します。
9	第1章 演習1-1 生活を理解する ねらい: 利用者の生活全体像を把握する力を養う。 内容: 生活行為の分析、生活課題の抽出。 学習活動: 生活分析ワーク、グループ発表。	適宜、指示します。
10	第1章 演習2-1 目の動きを大切にする ねらい: 観察力を高め、生活支援に活かす視点を身につける。 内容: 観察のポイント、非言語情報の理解。 学習活動: 観察演習、気づきの共有。	適宜、指示します。
11	第2章 第1節 住まいの役割と機能①(住まいの役割と機能) ねらい: 住まいが持つ基本的な役割と機能を理解する。 内容: 住まいの安全性・快適性・プライバシー・生活維持機能。 学習活動: 自宅の機能分析ワーク、住まいの役割に関する意見交換。	適宜、指示します。
12	第2章 第1節 住まいの役割と機能②(家族と生活空間) ねらい: 家族構成と生活空間の関係を理解する。 内容: 家族の生活動線、世代間の生活空間の違い、介護が必要な場合の空間調整。 学習活動: 家族構成別の生活空間図作成。	適宜、指示します。
13	第2章 第1節 住まいの役割と機能③(住まいと地域) ねらい: 地域とのつながりが生活に与える影響を理解する。 内容: 地域資源、近隣関係、地域包括ケアとの関連。 学習活動: 地域資源マッピング、地域との関係性の事例検討。	適宜、指示します。
14	第2章 第2節 生活空間①(人と空間) ねらい: 人の行動と空間の関係性を理解する。 内容: 動線、家具配置、身体機能と空間の関係。 学習活動: 動線改善ワーク、家具配置のシミュレーション。	適宜、指示します。
15	第2章 第2節 生活空間②(加齢と生活空間) ねらい: 加齢による身体機能の変化と生活空間の調整を説明できる。 内容: 加齢による視覚・聴覚・筋力の変化、転倒リスク、環境調整。 学習活動: 加齢体験キット(疑似体験)または動画視聴、転倒リスク分析。	適宜、指示します。
16	第2章 第3節 快適な室内環境①(生活環境と室内環境) ねらい: 室内環境の基本要素を理解する。 内容: 温度・湿度・照度・音・空気質などの環境要素。 学習活動: 室内環境の問題点を挙げるワーク、改善案の検討。	適宜、指示します。
17	第2章 第3節 快適な室内環境②(室内機構の調整・明るさの調整) ねらい: 室内環境の調整方法を説明できる。 内容: 換気、照明の種類、光の調整、視認性の向上。 学習活動: 照度の違いによる見え方比較、照明改善案作成。	適宜、指示します。
18	第2章 第3節 快適な室内環境③(音環境の調整・住まいの維持管理) ねらい: 音環境と住まいの維持管理の重要性を理解する。 内容: 騒音対策、生活音の配慮、清掃・点検・修繕の基本。 学習活動: 音環境の問題点分析、維持管理チェックリスト作成。	適宜、指示します。
	第2章 第4節 安全に暮らすための生活環境(災害・日常安全)	

19	ねらい: 日常生活と災害時の安全確保の視点を理解する。 内容: 転倒・火災・誤飲などの事故予防、災害への備え。 学習活動: 危険箇所チェックワーク、災害時の生活環境整備の事例検討。	適宜、指示します。
20	第2章 第5節 多職種との連携／演習2-1・2-2 ねらい: 居住環境整備における多職種連携の重要性を理解し、演習を通して実践的に学ぶ。 内容: 建築士・リハ職・ケアマネとの連携、環境整備のプロセス、演習-1・2-2。 学習活動: ・ 演習2-1: 快適な室内環境の条件 ・ 演習2-2: 自宅で生活するための環境整備 ・ 多職種連携のロールプレイ	適宜、指示します。
21	第3章 第1節 自立した移動とは①(自立した移動とは) ねらい: 自立した移動の概念と生活支援における意義を理解する。内容: 自立した移動の定義、移動の目的、生活の質との関係。 学習活動: 移動の困難さを考えるワーク、事例検討。	適宜、指示します。
22	第3章 第1節 自立した移動とは②(自立した移動の一連の流れ) ねらい: 移動のプロセスを段階的に理解する。 内容: 移動の準備→姿勢→重心移動→歩行の流れ、環境要因。 学習活動: 移動プロセスの観察ワーク、動画分析。	適宜、指示します。
23	第3章 第1節 自立した移動とは③(介護福祉職がすべきこと) ねらい: 自立支援の視点から移動介護の役割を説明できる。 内容: 見守り、声かけ、環境調整、リスク予測。 学習活動: 声かけロールプレイ、環境調整のシミュレーション。	適宜、指示します。
24	第3章 第2節 移動・移乗の基本的理解①(移動・移乗の基礎) ねらい: 移動・移乗の基本概念と安全確保の視点を理解する。 内容: 移乗の種類、身体力学、重心・支持基底面の理解。 学習活動: 身体力学の体験ワーク、重心移動の実験。	適宜、指示します。
25	第3章 第2節 起居動作①(寝返り・起き上がり) ねらい: 寝返り・起き上がりの介助方法を理解する。 内容: 体位変換の基本、寝返りの手順、起き上がりの支援。 学習活動: ペア演習(寝返り・起き上がり)、観察ポイントの整理。	適宜、指示します。
26	第3章 第2節 起居動作②(立ち上がり) ねらい: 立ち上がり動作の介助手順と安全確保を説明できる。 内容: 立ち上がりの動作分析、支持の仕方、転倒予防。 学習活動: 立ち上がり介助演習、動作分析ワーク。	適宜、指示します。
27	第3章 第2節 姿勢保持(安楽な姿勢・体位保持) ねらい: 安楽な姿勢の作り方と体位保持の根拠を理解する。 内容: 体圧分散、褥瘡予防、クッションの使い方。 学習活動: 体位保持の実技、クッション配置の演習。	適宜、指示します。
28	第3章 第2節 歩行の介助 ねらい: 歩行介助の基本と安全確保のポイントを理解する。 内容: 歩行の種類、歩行補助具、見守り・部分介助・全介助。 学習活動: 歩行介助演習、歩行観察チェックリスト作成。	適宜、指示します。
	第3章 第2節 車いすの介助(移乗・移動の統合)	

29	<p>ねらい: 車いす移乗および移動介助の基本手順と安全確保を理解する。</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 車いすの構造(ブレーキ・フットサポート・アームサポート)</li> <li>• 移乗の基本手順(立位移乗・座位移乗)</li> <li>• 車いす移動の基本(平地・狭い場所・方向転換)</li> <li>• 段差・坂道での介助と危険ポイント</li> <li>• 環境調整と安全確認の視点</li> </ul> <p>学習活動:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 車いす移乗演習(ペアワーク)</li> <li>• 車いす移動演習(段差越え体験含む)</li> <li>• 危険ポイントのチェックリスト作成</li> <li>• 教員フィードバックと自己評価</li> </ul>	適宜、指示します。
30	<p>前期総復習(移動・移乗の総まとめ)</p> <p>ねらい: 前期30回で学んだ生活支援技術(特に移動・移乗)を統合し、理解の定着と課題の明確化を図る。</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 自立した移動の概念の再確認</li> <li>• 身体力学の要点整理(重心・支持基底面)</li> <li>• 起居動作(寝返り・起き上がり・立ち上がり)の総復習</li> <li>• 歩行介助のポイント整理</li> <li>• 車いす介助(移乗・移動)の総まとめ</li> <li>• 前期の学習内容の振り返りと後期への課題設定</li> </ul> <p>学習活動:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ミニテスト(知識確認)</li> <li>• 実技総合演習(起居動作・歩行・車いす)</li> <li>• グループでの動作分析と改善提案</li> <li>• 自己評価シート記入</li> <li>• 教員による総合フィードバック</li> </ul>	適宜、指示します。
31	<p>第4章 第1節 生活支援における福祉用具の重要性①(福祉用具とは)</p> <p>ねらい: 福祉用具の定義と生活支援における役割を理解する。</p> <p>内容: 福祉用具の概念、生活機能の補完・代替・拡張の視点。</p> <p>学習活動: 身近な福祉用具の例を挙げるワーク、用途分類。</p>	適宜、指示します。
	適宜、指示します。	
32	<p>第4章 第1節 生活支援における福祉用具の重要性②(福祉用具サービスの 変遷)</p> <p>ねらい: 福祉用具サービスの歴史と制度的背景を理解する。</p> <p>内容: 介護保険制度と福祉用具、サービスの変遷、利用者ニーズの変化。</p> <p>学習活動: 年代別の福祉用具の変化を調べるワーク。</p>	適宜、指示します。
	適宜、指示します。	
33	<p>第4章 第1節 生活支援における福祉用具の重要性③(使用する意義)</p> <p>ねらい: 福祉用具を使用する意義を説明できる。</p> <p>内容: 自立支援、介護負担軽減、安全性向上、生活の質の向上。</p> <p>学習活動: 事例検討(福祉用具導入前後の比較)。</p>	適宜、指示します。
	適宜、指示します。	
34	<p>第4章 第1節 生活支援における福祉用具の重要性④(介護テクノロジーの 可能性)</p> <p>ねらい: 介護テクノロジーの活用による生活支援の可能性を理解する。</p> <p>内容: ICT・ロボット技術、見守りセンサー、AI活用。</p> <p>学習活動: 最新テクノロジーの紹介動画視聴、利点と課題の整理。</p>	適宜、指示します。
	適宜、指示します。	
35	<p>第4章 第2節 福祉用具の種類①(分類)</p> <p>ねらい: 福祉用具の分類と特徴を理解する。</p> <p>内容: 移動系・排泄系・入浴系・自助具・住宅改修関連など。</p> <p>学習活動: 福祉用具の分類カードワーク。</p>	適宜、指示します。
	適宜、指示します。	
	<p>第4章 第2節 福祉用具の種類②(高齢者・障害者へのサービス)</p>	適宜、指示します。

36	ねらい: 高齢者・障害者に対する福祉用具サービスの特徴を理解する。 内容: 介護保険の貸与・購入、障害福祉サービスの給付。 学習活動: ケース別に必要な福祉用具を選ぶワーク。	適宜、指示します。
37	第4章 第3節 適切な福祉用具を選ぶための視点①(福祉用具だけが解決手段ではない) ねらい: 福祉用具以外の解決手段も含めて支援を考える視点を理解する。 内容: 環境調整、介助方法の工夫、生活習慣の見直し。 学習活動: 「福祉用具を使わない選択肢」を考える事例検討。	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
38	第4章 第3節 適切な福祉用具を選ぶための視点②(リスクとリスクマネジメント) ねらい: 福祉用具に伴うリスクとその管理方法を理解する。 内容: 誤使用・転倒・挟み込みなどのリスク、点検・メンテナンス。 学習活動: リスク事例の分析、リスク回避策の検討。	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
39	第4章 第3節 適切な福祉用具を選ぶための視点③(提供プロセス・アセスメント) ねらい: 福祉用具提供のプロセスとアセスメントの視点を理解する。 内容: 相談→評価→選定→適合→モニタリングの流れ。 学習活動: アセスメントシートを用いたケース検討。	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
40	第4章 第3節 適切な福祉用具を選ぶための視点④(適合・モニタリング) + 演習4-1・4-2 ねらい: 適合・モニタリングの重要性を理解し、演習を通して実践的に学ぶ。 内容: 適合の確認ポイント、継続的モニタリングの方法、演習-1・4-2。 学習活動: ・演習4-1: 福祉用具のタイプによる違い ・演習4-2: 最新の福祉用具の把握 ・適合チェックのロールプレイ	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
41	第5章 第1節 自立した家事とは①(自立生活を支える家事) ねらい: 家事が自立生活に果たす役割を理解する。 内容: 家事の種類、生活維持機能、家事とQOLの関係。 学習活動: 自分の生活における家事の役割を考えるワーク。	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
42	第5章 第1節 自立した家事とは②(自立した家事の一連の流れ) ねらい: 家事動作のプロセスを段階的に理解する。 内容: 計画→準備→実行→片付けの流れ、環境調整。 学習活動: 家事動作のプロセス分析ワーク。	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
43	第5章 第1節 自立した家事とは③(介護福祉職がすべきこと) ねらい: 自立支援の視点から家事援助の役割を説明できる。 内容: 見守り、声かけ、手順の簡素化、環境調整。 学習活動: 声かけロールプレイ、家事援助の事例検討。	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
44	第5章 第2節 自立に向けた家事の介護①(調理の介護) ねらい: 調理介護の基本と安全確保を理解する。 内容: 調理の工程、衛生管理、火気・刃物の安全、簡便化の工夫。 学習活動: 調理工程の分解ワーク、衛生管理チェック。	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
45	第5章 第2節 自立に向けた家事の介護②(洗濯の介護) ねらい: 洗濯介護の基本手順と衛生管理を理解する。 内容: 洗濯物の分類、洗剤の選択、干す・畳む・収納の支援。 学習活動: 洗濯手順のシミュレーション、衛生管理のポイント整理	適宜、指示します。
		適宜、指示します。

	学習活動: 洗濯手順のシミュレーション、衛生管理のポイント整理。	適宜、指示します。
46	第5章 第2節 自立に向けた家事の介護③(掃除・ごみ捨ての介護) ねらい: 掃除・ごみ捨ての支援方法を理解する。 内容: 掃除の手順、動線の確保、衛生面の配慮、地域のごみ出しルール。 学習活動: 掃除手順の分解、危険箇所のチェック。	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
47	第5章 第2節 自立に向けた家事の介護④(裁縫・衣類・寝具の衛生管理) ねらい: 衣類の補修や寝具管理の基本を理解する。 内容: 裁縫の基礎、衣類の補修、寝具の衛生管理、ダニ・カビ対策。 学習活動: 補修の簡易演習、寝具管理のケース検討。	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
48	第5章 第2節 自立に向けた家事の介護⑤(買い物の介護) ねらい: 買い物支援のポイントと自立支援の視点を理解する。 内容: 買い物計画、予算管理、移動手段、ネット注文の活用。 学習活動: 買い物計画ワーク、ケース別の買い物支援検討。	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
49	第5章 第2節 自立に向けた家事の介護⑥(家庭経営・家計管理の介護) ねらい: 家計管理支援の基本を理解する。 内容: 収支管理、支払いのサポート、金銭管理のリスク、成年後見制度。 学習活動: 家計管理のケーススタディ、リスク検討。	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
50	第5章 第3節 家事の介護における多職種連携+演習5-1~5-3 ねらい: 家事援助における多職種連携の重要性を理解し、演習を通して実践的に学ぶ。 内容: 在宅・施設での連携、ケアマネ・栄養士・リハ職との協働、演習-1~5-3。 学習活動: ・演習5-1: 買い物に行く際の留意点 ・演習5-2: 食事づくりにおける減塩方法 ・演習5-3: 衣服のしみのとり方 ・多職種連携ロールプレイ	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
51	第6章 第1節 応急手当について①(想定される事故と予防の視点) ねらい: 生活場面で起こり得る事故とその予防の視点を理解する。 内容: ・高齢者に多い事故(転倒・誤飲・火傷・溺水など) ・事故の背景要因(環境・身体機能・認知機能) ・事故予防の基本(環境調整・見守り・声かけ) 学習活動: ・事件事例の分析 ・危険箇所チェックワーク	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
52	第6章 第1節 応急手当について②(応急手当とは) ねらい: 応急手当の目的と基本原則を理解する。 内容: ・応急手当の定義 ・一次救命処置(BLS)の基本概念 ・安全確認・観察・通報の流れ ・介護現場で求められる初期対応 学習活動: ・応急手当の流れを図式化 ・状況判断のロールプレイ	適宜、指示します。
		適宜、指示します。
	第6章 第2節 応急手当の実際①(外傷・骨折)	適宜、指示します。

53	<p>ねらい: 外傷・骨折時の初期対応の基本を理解する。</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・切り傷・擦り傷の対応</li> <li>・出血時の圧迫止血</li> <li>・骨折が疑われる場合の観察ポイント</li> <li>・動かさない・冷やす・安静にする基本原則</li> </ul> <p>学習活動:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外傷対応のシミュレーション</li> <li>・骨折疑い時の観察ポイント整理</li> </ul>	適宜、指示します。
54	<p>第6章 第2節 応急手当の実際②(窒息・熱傷)</p> <p>ねらい: 窒息・熱傷の初期対応を理解する。</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・窒息の兆候、背部叩打法・腹部突き上げ法の理解</li> <li>・熱傷の程度と応急処置(冷却・衣服の扱い)</li> <li>・高齢者に多い窒息・熱傷の背景</li> </ul> <p>学習活動:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・窒息対応のロールプレイ(安全範囲での模擬)</li> <li>・熱傷対応のケース検討</li> </ul>	適宜、指示します。
55	<p>第6章 演習6-1・6-2(救急車の手配/応急手当の理解)</p> <p>ねらい: 応急手当の一連の流れを実践的に理解し、緊急時の対応力を高める。</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・救急車要請の判断基準</li> <li>・通報時の伝達内容(場所・状況・意識・呼吸など)</li> <li>・応急手当の総合演習</li> <li>・事故発生から通報までの流れの確認</li> </ul> <p>学習活動:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習6-1: 救急車の手配ロールプレイ</li> <li>・演習6-2: 応急手当の総合演習</li> <li>・グループでの振り返りと改善点の共有</li> </ul>	適宜、指示します。
56	<p>第7章 第1節 災害時における介護福祉職の役割①(災害時にこそ求められる福祉の力)</p> <p>ねらい: 災害時における介護福祉職の役割と必要な視点を理解する。</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の生活課題</li> <li>・福祉専門職として求められる支援</li> <li>・平時と災害時の支援の違い</li> </ul> <p>学習活動:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の事例検討</li> <li>・介護福祉職の役割を整理するワーク</li> </ul>	適宜、指示します。
57	<p>第7章 第1節 災害時における介護福祉職の役割②(生活支援の意義と目的)</p> <p>ねらい: 被災地での生活支援の目的と意義を説明できる。</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所生活の課題</li> <li>・要配慮者支援(高齢者・障害者・慢性疾患など)</li> <li>・生活支援の優先順位</li> </ul> <p>学習活動:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所の生活課題を抽出するグループワーク</li> <li>・支援の優先順位づけ演習</li> </ul>	適宜、指示します。

58	<p>第7章 第1節 災害時における介護福祉職の役割③(被災地で安全に活動するために) ねらい: 災害現場での安全確保とリスク管理を理解する。</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 二次災害の危険</li> <li>• 感染症対策</li> <li>• 情報収集・連携の重要性</li> </ul> <p>学習活動:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 危険予測トレーニング(KYT)</li> <li>• 災害時の安全行動チェックリスト作成</li> </ul>	<p>適宜、指示します。</p> <p>適宜、指示します。</p>
59	<p>第7章 第2節 災害時における生活支援の実際+演習-1・7-2 ねらい: 災害時の生活支援の実際を理解し、演習を通して実践的に学ぶ。</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 被災地での活動場所(避難所・在宅・福祉避難所)</li> <li>• 災害時の生活支援(食事・排泄・移動・衛生・見守り)</li> <li>• 演習7-1:ハザードマップ</li> <li>• 演習7-2:防災における図記号</li> </ul> <p>学習活動:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ハザードマップの読み取り</li> <li>• 図記号を使った避難誘導の演習</li> <li>• 災害時支援のケーススタディ</li> </ul>	<p>適宜、指示します。</p> <p>適宜、指示します。</p>
60	<p>年間総復習(生活支援技術 I の総まとめ) ねらい: 1年間で学んだ生活支援技術の全体像を統合し、理解の定着と今後の実践につながる視点を整理する。</p> <p>内容:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 第1～7章の重要ポイント総まとめ</li> <li>• 生活支援の理念(ICF・自立支援・根拠に基づく実践)</li> <li>• 居住環境・移動介助・福祉用具・家事援助・応急手当・災害支援の統合</li> <li>• 生活支援技術の「共通する視点」整理</li> </ul> <p>学習活動:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 総合ミニテスト(知識確認)</li> <li>• 実技の総合演習(移動・移乗・車いす・家事援助の一部)</li> <li>• グループでの年間振り返り</li> <li>• 自己評価シート(成長・課題・今後の目標)</li> <li>• 教員からの総合フィードバック</li> </ul>	<p>適宜、指示します。</p> <p>適宜、指示します。</p>
<p>成績評価の方法</p> <p>授業参加・態度 :30% 出席状況、授業への参加姿勢、グループワークでの協力姿勢などを評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 小テスト・課題 :40%</li> </ul> <p>各章末の確認テスト、ワークシート、事例検討レポートなどを評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 期末評価(筆記試験またはレポート) 30%</li> </ul> <p>年間の学習内容の理解度を総合的に評価する。</p>		
<p>使用テキスト・参考書等</p> <p>教員作成資料</p>		
<p>授業に関する特記事項(携帯電話の取り扱いや授業内のルール等)</p> <p>グループワークでは互いを尊重し、積極的に参加すること。</p>		

- 授業中の私語・飲食は禁止(水分補給は可)。
- 教室内の撮影・録音は禁止(許可がある場合を除く)。